

平成17年7月28日
筑波大学

北アフリカ研究センターの連携融合による国際的な学術研究活動について

1 北アフリカ研究センター（ARENA）の職員のチュニジアへの派遣

- (1) ARENA の北アフリカ地域での活動を支援し、同地域の研究機関との国際連携をより一層促進するため、チュニジア共和国内における海外拠点の形成に着手することとした。
- (2) このため、本年8月4日から2年間、ARENA 所属の講師1名をチュニジアの研究機関に派遣し、ARENA を窓口として海外拠点の形成に着手する。

なお、教員を北アフリカ地域に派遣し、海外拠点を設置することは、国立大学においては初の試みと思われる。

2 ARENA とチュニジアとの国際共同研究

- (1) ARENA では、6月6日にチュニジア共和国科学研究・技術・能力開発省との間で科学技術協力に係る枠組みについて合意し、バイオテクノロジー、水／環境、エネルギー等の分野で国際共同研究を実施することとなった。
- (2) ARENA では、既に平成16年12月より同国国立科学技術研究所（INRST）の研究者を国際協力機構（JICA）の研修員として受入れ共同研究の準備を進めていた。今後、本格的な共同研究が実施されることにより先端的なバイオテクノロジー、水及び環境分野における研究成果に基づいた特許も期待されている。
- (3) この国際共同研究においては、チュニジア原産の希少な生物種を利用することから生物多様性条約に則った国際共同研究の枠組みを構築することが必要とされていた。上記の合意により ARENA とチュニジアの研究機関との共同研究を円滑に実施出来る体制が整ったと言える。

3 ボルジュ・セドリア・テクノパーク建設事業に対する協力

- (1) チュニジア共和国の研究機関との国際共同研究において、同国内の拠点の一つとなるボルジュ・セドリア・テクノパークの整備に対し、我が国は本年6月に国際協力銀行（JBIC）を通じて円借款による資金提供を決定した。
- (2) 筑波大学は国際協力銀行による円借款の準備段階から協力をを行い、本年5月には国際協力銀行と協力協定を締結し、同テクノパークに対する支援においてより緊密な連携を図っていくこととした。

(3) ボルジュ・セドリア・テクノパーク建設事業では、同テクノパーク研究者の日本留学等を支援することにより、日本の知見を活用したチュニジア側研究者の能力向上を目標の一つにしている。日本国内においても ARENA を中心に組織的な受入れ体制の準備が進んでおり、ARENA は北アフリカに関する学術研究の日本国内における拠点としての役割を果たすことを期待されている。

* 生物多様性条約：日本は 1993 年 5 月に締結。生物の多様性の保全、生物多様性の構成要素の持続可能な利用、遺伝資源の利用から生ずる利益の公正で衡平な配分を目的としている。

* 派遣教員：森尾貴広講師（生命環境科学研究科情報生物科学専攻、北アフリカ研究センター勤務）
専門分野は分子遺伝学であり、知的財産としての遺伝子リソースの管理・運用システムの構築に携わった経験を有する。

* 具体的な派遣任務：

ボルジュ・セドリア・テクノパーク事業の研究開発部門における、研究者・技術者育成支援、研究拠点化支援、産学連携拠点形成（産学連携・知財保全システム構築）支援などを担う。

* ボルジュ・セドリア・テクノパーク事業：

チュニジア共和国の首都チュニスの南東約 25km に位置するボルジュ・セドリア地区に、同国の国家戦略上重要かつ必要性の高い「バイオテクノロジー」「水・環境」「再生可能エネルギー」の 3 分野の研究開発を行う大学都市及びイノベーションパークを建設するものである。ARENA では、バイオテクノロジー分野及び水循環分野に関する研究内容、研究施設・機器、研究所運用等について積極的に協議・助言し、案件の形成に協力してきている。

問合せ先：北アフリカ研究センター

磯田博子助教授

電話 029-853-5775